

# 韓国における舞踊専門雑誌の 現状と課題

金 孝 順

## 【研究目的】

本研究の目的は、1980年に入って急成長を遂げた韓国の舞踊界における舞踊専門雑誌の現状と課題を明らかにすることにある。

## 【研究方法】

1. 舞踊専門雑誌に望まれる姿を文献より考察する。
2. 韓国内の舞踊における定期刊行物の種類・発行目的・その性格を明らかにする。主要な舞踊専門雑誌「舞踊韓国」「チュム」「客席」, 1988～1989年, 52冊の目次から内容量的な分析を試み, かつ, 「チュム」1989年に掲載された公演115件の内容の構造分析をする。
3. 大学の舞踊専攻学生の舞踊専門雑誌に関する認識度のアンケート調査(1990年4月194人, 1996年4月103人)を行う。
4. 1と2, 3の結果を比較し, 考察する。

## 【結果及び考察】

### 1. 舞踊専門雑誌に望まれる姿

文献(「文化政策」1988年, 「芸術と行政」1988年, 「韓国出版年鑑」1989年)より, 舞踊専門雑誌に望まれる姿を考察した結果は以下の通りである。

- ①舞踊専門雑誌としての自己哲学(発行目的)が明確であること。
- ②専門的な情報や知識を結集していること。
- ③舞踊分野を支援する存在であること。
- ④読者に感動を与えるような内容を持つこと。

### 2. 舞踊専門雑誌の現状

#### ①舞踊専攻学生に人気を誇る3雑誌の性格

「舞踊韓国」(1969年12月に創刊, 季刊誌)は研究論文が中心になっており, 研究誌と言える。

「チュム」(1976年1月に創刊, 月刊誌)は国内の舞踊情報は無論, 世界の舞踊情報や知識を豊富に伝えている。舞踊専門雑誌として唯一, 政府文化広報部から支援金を受けている。

「客席」(1984年4月創刊, 月刊誌)は総合芸術誌として芸術全般の記事や情報を読者に提供することで関心を集め, 舞踊公演活動の場に最も力を注いでいる。

#### ②舞踊専門雑誌の目次分類

〈舞踊の情報〉〈公演評〉〈舞踊研究論文〉〈舞台写真〉〈公演の記録〉などの順で多く取り上げられていた。

#### ③公演評の内容分析

雑誌全体ページにおける公演評の比率は, 「舞

踊韓国」3%, 「チュム」12%, 「客席」3%であった。また「チュム」に1年間掲載された公演評115件の分析の結果, 内容は以下の14項目を含むものであった。①総評②作品の内容③作品の構成④作品性⑤振付師の能力⑥踊り手の紹介⑦作品の性格⑧舞台構成⑨音楽⑩踊り手の能力⑪衣装⑫問題点⑬作品の比較⑭作品主題の分析である。その結果, 「動き」についての記述がなされていないことなどが明らかになった。

#### 3. 舞踊専攻学生が舞踊専門雑誌にもとめる内容

アンケートの調査結果から舞踊専門雑誌には, 主に, ①偏りのない公演評の提供, ②新しい情報の提供, ③専門的な知識の提供, ④わかりやすい評論, が求められていることが明らかになった。96年の結果では①は少なくなり, ②に含まれていた職業案内の提供が強く求められている。

#### 4. 雑誌に望まれる姿との比較考察

1と2, 3の結果から以下の考察が得られた。①「舞踊専門雑誌としての自己哲学が明確であること」と②「専門的な情報や知識を結集していること」について, 「チュム」「舞踊韓国」に注目してみる。

「チュム」の発行目的は「舞踊に対する学術及び, 教育に対する内容を掲載し, 舞踊芸術の向上に寄与すること」であり, 目次〈海外論壇〉では読者に世界的な知識を豊富に伝え, 〈公演評〉〈今月の座談〉〈踊りのある風景〉などでは舞踊分野を多面的に取りあげていることから, 目的を果たしていると考えられる。「舞踊韓国」の発行目的は「舞踊家の品位を鼓吹し, 韓国舞踊を国内・外に紹介し, 伝統的な芸術が持つ理念を国民と世界の中に深く広め, 舞踊の発展に寄与すること」であり, 目次〈企画・連載〉に韓国舞踊に関する研究論文が多く書かれ, 〈舞台写真〉では韓国舞踊を中心にとりあげ, また海外公演を支援し, その記録を掲載することなどによって目的を果たしていると考えられる。

③「舞踊分野を支援する存在であること」については, アンケートで「舞踊専門雑誌が舞踊界に与える貢献度は普通またはそれ以上である」と90年は92%, 96年は95%が答えていることから, 現在, 舞踊専門雑誌は舞踊分野の代弁者であり, 支援者であると考えられる。

④「人々に感動を与えるような内容を持つこと」については, 客観的な結果を得ていないが, 3, のアンケートの結果で求められている①～④の内容の実現によって, さらに感動を与える雑誌に育っていくであろうと推察される。

## 【終りに】

今後の課題としては, 専門知識を持つ記者の養成と舞踊専門雑誌に対する国家レベルの援助が必要であると考えられる。